

あなたのスキルは社会に役立つ

エンジニアだからできる社会貢献

東日本大震災の発生直後に発足したHack For Japanや「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーを始めとして、日本各地で技術を活用した社会貢献活動が行われています。本連載では、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアだからできる社会貢献」の取り組みをお届けします。

第142回

シニア世代がChatGPTのbotをプログラミングなしで作る

● Code for Shiogama 小泉 勝志郎(こいずみかつしろう)

AI技術の発展は目覚ましく、その中でも生成系AIはとくにここ1年で大きく様子が変わりました。前回(本誌2023年9月号)ではChatGPTプラグインである「国会議事録検索(The Diet Search)プラグイン」を紹介しましたが、今回はChatGPT活用の中でも、botの作成にフォーカスします。

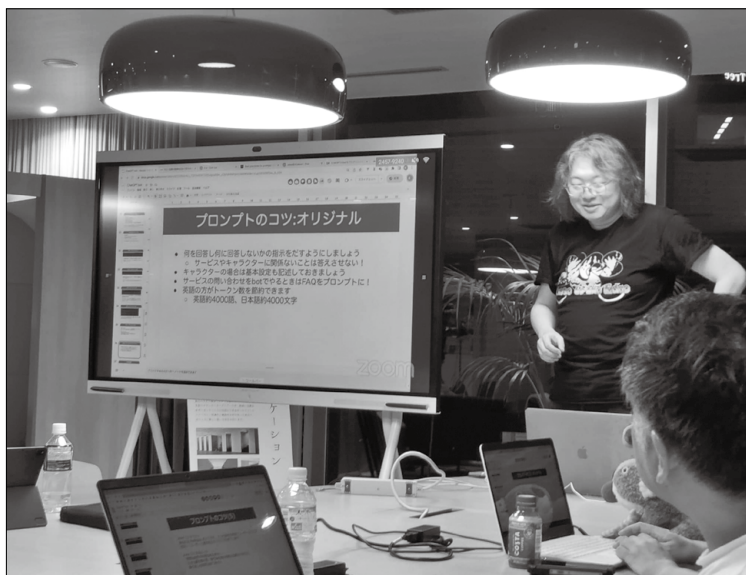
筆者はシニア世代の方々がプログラミングや最新技術を学び、それを日常生活やビジネスに活かす手助けをするために「シニアプログラミングネットワーク」^{※1}という団体を運営しています。このネットワークでは、シニア世代の方々が互いに知識や経験を共有し、新しい技術の習得をサポートし合っています。このシニアプログラミングネットワークで、2023年7月に2回、「プログラミングなしでChatGPTのbotを作る」というワークショップを行いました。今回はシニア世代の生成系AI活用の紹介も交えて、

ワークショップの様子をレポートします。

ワークショップについて

2023年7月8日の19時30分から21時の間、ChatGPTボットの作成方法を中心とするオンラインのワークショップを開催しました。このイベントは、募集開始からわずか12時間程度で満席となりました。この盛況を受けて、^{きゅうきよ}急遽7月22日に仙台でリアル開催のワークショップを実施しています(写真1)。

◆写真1 仙台でのワークショップの様子



注1) <https://senior-programming.net/>

高速AIチャットサービス「Poe」を活用

今回のワークショップでは、Poe（ポー）という米Quora社のAIチャットサービスを用いました^{注2}。iOS/AndroidアプリとWebからアクセス可能です。Poeはbot作成以外にも有用なサービスです。まずはこのサービスを紹介していきます。

無料ユーザーでも数に制限なくbotを作成可能

Poeでは、ユーザーが無料でChatGPTのボットを作成できます。ワークショップの中でも触れているのですが、Poeでのbot作成はワークショップが不要に思えるほど簡単です。無料ユーザーであっても、リッチな返答やリンクの生成などの高度な機能を利用できます。

URLやファイルの読み込みがデフォルトで可能

URLや添付ファイルの中身を解釈できる点が大きな強みです。質問にURLを入れるとリンク先の内容をきちんと読んでくれます。ChatGPTのCode Interpreterのようなデータ分析まではできませんが、添付ファイルもテキストとして読むぶんには問題ありません。

AnthropicのClaudeも利用可能

複数のAIモデルを切り替えることができるため、ChatGPTだけでなく、執筆時点（2023年8月現在）まだ日本では使用が開始されていないAnthropic社のClaude（クロード）^{注3}もサポートしています。2021年までのデータしか持たないChatGPTに対して、Claude 2は2023年1月までのデータを持ち、文庫本1冊相当の10万トークンに対応しています。無料ユーザーはClaude-instant、有料ユーザーはClaude 2を制限なしで利用できます。

注2) <https://poe.com/>

注3) <https://www.anthropic.com/index/claude-2>

Claudeの特徴として、創作系に強いことが挙げられます。これにより、キャラクターボットの作成にはChatGPTよりClaudeのほうが向いているのではないかと思います。これを検証するために、筆者のキャラクターである「渚の妖精ぎばさちゃん」のbotを2つ用意してみました。どちらも同じ設定で作成しており、2つの違いは使用しているAIモデルがChatGPTかClaudeかという点だけです。

- ChatGPT使用のbot
<https://poe.com/gibasachan>
- Claude使用のbot
<https://poe.com/gibasachan2>

この2つの違いを、みなさんもぜひ体感してみてください。

日本語に完全対応

Poeは日本語にも完全に対応しています。7月8日のワークショップでは日本語対応が未実装であったものの、22日のワークショップでは日本語化が完了していました。これは、本家ChatGPTがまだ日本語化されていない中で、非常に大きな特徴と言えますね。

ワークショップのダイジェスト

基本のbotの作成

●botページの作成

はじめに、Poeの公式サイトやアプリからアクセスします。今回はデスクトップ版を用いました。GoogleアカウントやApple IDがあればスムーズにサインアップできます。

ログインできたら、メニューからbot作成画面に移動し、botのハンドル名と説明を入力します。botの名前はURLの一部になるので、半角英数かつこれまでに使われていない名前である必要があります。

続いて、ClaudeまたはChatGPTから、ペー



スとなるbotを選びます。

●プロンプトの設定

ここが一番の肝となるところです。プロンプトとして、botの役割に基づいた指示を入力します。プロンプトは日本語で入力できます。今回は参加者のみなさんに、「あなたは猫です。語尾に『ニャー』とつけてください」というプロンプトでbotを作ってもらいました。

なお、良いプロンプトの例は公式ドキュメント^{注4}で紹介されています。具体的には次のような内容です。

- 「あなたは〇〇です」と役割を明確にする
- 誤読されないように明確に書く
- マークダウンを使用して指示を構造化する

●オプションの設定

最後に、いくつかのオプションを設定します。まず、チャットの開始時に表示される文（イントロメッセージ）を入力します。この文は省略可能です。

botはほかの人に使わせる目的で作ると思われるので、アクセス設定は「公開」にしましょう。

また、次の設定は応答のスタイルや内容を細かく設定できるので、全部ONにしましょう。

- 自動的に返信を提案：質問のサジェストが出る
- マークダウンをレンダリング：返信でリンクや表が記述されるようになる
- ボットからの返信をリンク化：botの返信をPermalinkとして共有できるようになる

自分用botの作り方の紹介

次に応用例として、自分専用botの作り方も紹介しました。たとえばプログラミングで

ChatGPTを用いる際、何度もやりとりを繰り返していると「これはそもそも何のためのプログラミングをしているのか?」という前提をChatGPTが忘れてしまうことがあります。しかし、Poeのbot機能のプロンプトの箇所に作るものの目的や仕様を書いておけば、やりとりが続いても忘れられなくなります。

これは、物語を書く際にも応用できます。botのプロンプトにあらすじと登場人物一覧を入れておけば良いのです。ぜひ試してみてください。

作成したbotの発表

ここでは、ワークショップで参加者が作成したbotを2つ紹介します。

1つめは、シニアプログラミングネットワークでもお馴染みの鈴木富司さんによる「SwiftUIに特化した回答をしてくれるbot」です^{注5}。応用例として紹介した自分用botをさっそく取り入れるあたりはさすが鈴木さんです。

2つめは、シニアではなく女性社長さんによるbotで「彼女ができない男性に、乙女心を教えてくれる婚活の先生」という尖ったもの^{注6}。筆者が質問してみたら図1のように回答してくれました。

さいごに

生成系AIはまさに世界を変えるテクノロジーだと筆者は思っています。とくにシニアプログラミングネットワークに集まるシニアのみなさんにも活用が進んでおり、今回のbot作成ワークショップでさらに広がっていければ幸いです。そして、ここからさらに一般シニアにも広げていけるよう、シニアプログラミングネットワークでは活動していきます。SD

注4) <https://developer.poe.com/prompt-bots/best-practices-for-prompts>

注5) <https://poe.com/Tomzy02>

注6) <https://poe.com/otomegokoro>

◆ 図1 otomegokoroとのやりとり

身長190cmありますが、どうすれば良いですか？

otomegokoro Poe

あら、190cmもあるんだ。大きな男性だね。でも、身長が高いっていうのは魅力的なポイントでもあるんだよ。ただし、自分に自信を持っていないと、それがマイナスに働いちゃうこともあるのよ。

まずは自分の身長を受け入れることが大切よ。背が高い男性だからこそ、周りの人には頼りがいがあると思われるわ。それに、服の選び方や髪型など、自分に合ったスタイルを見つけることも大切よ。

そして、大事なのは内面も魅力的にすること。自分に自信を持って、優しくして面白くて、周りの人を大切にしている姿勢を持っている男性は、必ずモテるわよ。自分磨きをして、素敵な紳士になってみては？

Column シニア世代の生成系AI活用事例

ここではシニアプログラミングネットワークのメンバーたちの具体的な事例を取り上げて紹介します。ちょっと大げさかもしれませんが無限の可能性があると思えますよ！

■ SwiftUIでのアプリ制作：鈴木富司さんの成功例

88歳でありながらChatGPTをSwiftUIでのアプリ開発に活用した鈴木富司さんは、シニア世代の中でもとくに注目すべき存在です。鈴木さんは2022年末に入院されたのですが「入院時におしっこの回数と時間を聞かれるけど覚えていない！」ということがあったそうです。そんなご自身の経験を基に「オシッコ回数記録」というiOSアプリをリリースしました^{注A}。このアプリの開発の際に、ChatGPTをコーディングのメンターのように使用されたのです。そしてその経験を基に『88歳、トミ爺。ChatGPTをSwiftUIのコーディングメンターにする！』という本を出版しました^{注B}。

この本ではChatGPTの活用方法を詳しく紹介しているため、プログラミング初心者から経験者まで幅広く参考にできる内容となっています。ChatGPTをロボットメンターとして使用する際の心構えや、効率的な質問法など、非常に価値ある情報が詰め込まれています。とくに、鈴木さんの独自のアプローチやノウハウが詳細に解説されているのが特徴的です。シニア世代が使う際には、

最初のサインアップなど英語が出てくるだけで面食らう人が多いのですが、スクリーンショットとともに詳細に解説があり、ChatGPTに触れたことのない方にも進められる内容です。「回答にありがとうは必要か？」という項目があるのもシニア世代ならではの思えるところです。

■ Chiakinicosちあきさんの著書紹介

Chiakinicosちあきさんは、AI画像生成技術「Bing Image Creator」に関する本『ChatGPT-4 & 画像生成AI Bing Image Creator』を技術系同人誌の即売会「技術書典」で販売しました。イベント中に190冊も売れるなど、非常に高い評価を受けています。技術書店の開催時間が6時間なので、2分に1冊以上のペースで売っていたんですよ！

この本では、ChatGPT-4との対話を通じての学びや、Bing Image Creatorを活用した画像生成に関する深い知識が紹介されています。各章で、ChatGPT-4との具体的な対話例やその背後の理論、さらには未来の可能性について深く掘り下げられており、AIとの対話の可能性を最大限に引き出す方法が詳しく解説されています。

注A <https://apps.apple.com/jp/app/id1666769607>注B <https://www.amazon.co.jp/dp/4600012569>注C <https://techbookfest.org/product/uyskwYtf1UYDt3ftD3KgTR?productVariantID=cHJgcPS81PpaHwpCCdyF6s>